

「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」第5回会議  
議事録

日 時 令和5年3月24日（金）午後1時～午後3時

場 所 QUESTION 4階およびオンライン会議システム併用

出席者（敬称略、五十音順、\*印はオンライン参加）

近藤令子、鈴木靖文、津田郁太、中村多伽\*、新川達郎、野村恭彦、前田展広、松本直人\*、  
横江一徳、吉野章

（オブザーバー：谷口実（京都商工会議所青年部 副会長）、

藤井紗菜（近畿地方環境事務所 地域循環共生圏・脱炭素推進グループ）

欠席者 一ノ瀬メイ、一原雅子、岩崎達也、大木和典、太田航平、木原浩貴、笹岡隆甫、寺島美羽、  
中嶋直己、深尾昌峰、松添みつこ

次 第

- 1 2050京創ミーティングの成果の共有
- 2 意見交換（今後の活動について）
- 3 次年度のスケジュール、事務連絡等

○意見交換での主なご意見

- ・ これまでの京創ミーティングの中で実行してきた取組を今後さらに拡大していき、若者をはじめ多くの人たちの意識を変えることでライフスタイルの転換につなげていければよい。
- ・ 推進チームの中でも、プロジェクトについてもっと深く話し合える時間がほしい。目標を達成するためには、京都らしさを大切にしながら、企業側も喜んで参画してくれるようなプロジェクトをつくってけるとよい。
- ・ お金があれば、プロジェクトをもっとパワフルに動かせそうである。また、事務局から、事業のKPIの設定に関する説明があったが、その一つの案として、京創ミーティングに関わった企業数をプロジェクトに関するKPIに設定するとよいと思う。プロジェクトは、企業にとっても事業開発の機会となっている。
- ・ 京創ミーティングの取組について、アンテナを張っていたつもりだが、知らないプロジェクトもあった。メンバーがこのような会議の場ではじめて知ることは、もったいないと思うので、どんどん周知拡大してほしい。
- ・ 自身でも新品の服は買わないようにしようと思っている。例えば、使用済衣服の回収&循環プロジェクトで、衣服を26,000着回収したとの話があったが、集めた26,000着の衣服がサブスクリプションで着放題と考えると、ひとつの豊かさである。それぞれのプロジェクトについて、アプローチの仕方や呼びかけの仕方によって市民が受け入れやすくなると思う。

- ・ 京都信用金庫としては、循環フェスやごみカフェKYOTOのプロジェクトに関わった。今後、金融機関として、もう少し具体的な形で中小企業への支援を実施していきたい。
- ・ 推進チーム会議やワーキンググループ会議で、メンバーと仲良くなればなるほど話がしやすくなる。脱炭素のためにお金を払うと、脱炭素のサービスがお得に受けられるような市民のコミュニティをつくっていききたい。ふるさと納税を活用し、京都市外の関係人口を増やすこともできそうである。広島県の「HITひろしま観光大使」や綾部市の「あやべ特別市民制度」を参考にした、脱炭素コミュニティをつくれれば、さらに発展していくと思う。
- ・ 市民の参加数を確実に伸ばしていることは素晴らしい。プロジェクトも個性的で面白い。活動が自発的に生まれ、消費者にまでインパクトを広めていくことができると理想的である。
- ・ 情報発信ではプロジェクト実施の背景となる脱炭素の効果やストーリーも加えると、継続的な取組につながる。また、CO<sub>2</sub>の削減について、京都はカーボンクレジットを購入している企業が一番多い街としてブランディングしていけるとよい。商品ごとにカーボンフットプリントによる見える化を進めるスタートアップ企業もいるので、連携したい。

#### <オブザーバー>

- ・ 京都商工会議所は国内外のネットワークがあるため、京創ミーティングに協力していきたい。
- ・ 脱炭素ライフスタイルのビジョンを策定していることは知っていたが、ここまで具体的な取組が進んでいることは知らなかった。みんなが楽しめる取組を進めることが、脱炭素の実現につながる姿を、京都市が見せてくれることに期待している。

以上